

地域づくりの方向6について

～人間優先の基盤が整備された、安全・安心のまち～

新基本計画体系案

現基本計画体系

【政策】		【施策】	
6-(1)	文化と魅力を備えたまちづくり	①	地域の特性を生かした市街地の形成
		②	池袋副都心の再生
		③	活力ある地域拠点の再生
		④	居心地が良く歩きたくなる空間づくり
6-(2)	魅力ある都心居住の場づくり	①	安全・安心に住み続けられる住まいづくり
		②	良質な住宅ストックの形成
6-(3)	魅力を支える交通環境づくり	①	総合交通戦略の推進
		②	道路・橋梁の整備と維持保全
		③	自転車利用環境の充実
6-(4)	災害に強いまちづくり	①	災害に強い都市空間の形成
		②	自助・共助の取組への支援
		③	被害軽減のための応急対応力向上
		④	無電柱化の推進
		⑤	総合治水対策の推進
6-(5)	日常生活における安全・安心の強化	①	治安対策の推進
		②	交通安全対策の推進

【政策】		【施策】	
6-(1)	文化と魅力を備えたまちづくり	①	地域の特性を生かした市街地の形成
		②	池袋副都心の再生
		③	活力ある地域拠点の再生
		④	新・旧庁舎を活用した文化にぎわいの創出
6-(2)	魅力ある都心居住の場づくり	①	安全・安心に住み続けられる住まいづくり
		②	良質な住宅ストックの形成
6-(3)	魅力を支える交通環境づくり	①	総合交通戦略の推進
		②	道路・橋梁の整備と維持保全
		③	自転車利用環境の充実
6-(4)	災害に強いまちづくり	①	災害に強い都市空間の形成
		②	自助・共助の取組への支援
		③	被害軽減のための応急対応力向上
		④	無電柱化の推進
		⑤	総合治水対策の推進
6-(5)	日常生活における安全・安心の強化	①	治安対策の推進
		②	交通安全対策の推進

【変更理由】

●6-(1)-④

「新・旧庁舎」という呼称を現在では行っていないため。また、オープンカフェやマルシェによる道路空間の活用、エリアマネジメントによる新たな管理手法の導入等、ウォーカブルな街づくりを推進する施策体系を、日本語表記で分かりやすく示した。

施策 6 - 1 - 1 地域の特性を生かした市街地の形成

【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

- 次世代を担う子どもたちが誇れる、安全・安心で、美しく、にぎわいと活力にあふれた個性ある地域が調和し、人々を魅了し続ける価値を生み出すまち。
- 歴史や文化、引き継がれてきた地域の価値観を大切にしながら、新たな文化を創造し続ける都市にふさわしい美しい景観に包まれたまち



【取組方針】

地域の魅力を高める都市づくり

池袋副都心の再生や木造住宅密集地域の改善などの都市整備プロジェクトにあわせて、地域の特性を最大限にひきだて、安全・安心で快適に暮らせるなど、都市の価値を高める市街地の形成が必要です。また、SDGsを踏まえた持続可能な都市づくりを展開していく必要があります。

行政分野の枠組みを超えた政策連携を推進し、多様な主体との協働による効果的な都市づくりを実現する仕組みを構築します。また、都市計画法に基づく地区計画制度や都市開発諸制度等の活用、計画的な道路整備などにより地域の魅力を高める都市づくりを推進していきます。

[主な事業] Hareza池袋・南池袋公園周辺エリア地区計画変更事業

地域の特性を生かした新たな景観施策の展開

多様な地域資源を生かした個性ある景観形成が必要です。また、Hareza池袋やグローバルリングなどの新たな都市整備プロジェクトに連動して、都市の価値を高める魅力的な都市空間の創出が必要です。

環境の変化や地域住民の意識の高まりを踏まえ「景観形成特別地区」や街づくりの中で形成された新たな「景観資源」を追加指定するとともに、国際アート・カルチャー都市の実現に向けて、都市全体で文化を発信し、人々が楽しめる景観まちづくりに取り組みます。

[主な事業] 豊島区景観計画推進事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」と思う区民の割合【%】	34.7	39.0	44.0	地区計画の面積【ha】	368	369	373

6-1-1 施策内容チェックシート


1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	地域の特性を生かした市街地の形成
[主な変更内容]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<p>●地域の魅力を高める都市づくり</p> <p>◇地区計画制度の活用、都市開発諸制度の活用、計画的な道路整備</p>	<p>◇豊島区都市づくりビジョンの推進</p> <p>◇地域の魅力を高める地区計画の活用</p>
<p>●地域の特性を生かした新たな景観施策の展開</p> <p>◇「景観形成特別地区」や「景観資源」の追加指定</p>	<p>◇豊島区景観計画による新たな景観施策の展開</p>

3. SDGsを意識した点

<p>◇目指すべきまちの姿として「次世代を担う子どもたちが誇れる…まち」など、SDGsの視点を盛り込む。</p> <p>◇課題部分に「SDGsを踏まえた持続可能な都市づくりを展開していく必要があります。」と明記した。</p>		
<p>意識したゴール</p> 	<p>意識したターゲット</p> <p>7.b 持続可能なエネルギーサービス供給のためのインフラ拡大と技術向上</p> <p>9.1 質の高い持続可能かつ強靱なインフラの開発</p> <p>11.3 包摂的・持続可能な都市化を促進し、参加型で差別のない、持続可能な人間居住計画を計画管理する能力の強化</p> <p>11.7 安全で使いやすい緑地や公共スペースを、すべての人が利用できるようにする</p>	<p>意識したローカル指標</p> <p>11.3 人口増減</p>

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

<p>◇新型コロナ危機を契機として生じた、テレワークやデジタル化の進展などの経済・社会への影響だけでなく、人々の生活等への意識の変化にも対応した都市づくりを推進していく。</p>

5. 参画と協働を意識した点

<p>◇行政分野の枠組みを超えた政策連携を推進する際、「多様な主体との協働による効果的な都市づくりを実現する仕組みを構築していく」ことを明記した。</p>

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-1-1	地域の特性を生かした市街地の形成
部課名	都市整備部都市計画課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
次世代を担う子どもたちが誇れる、安全・安心で、美しく、にぎわいと活力にあふれた個性ある地域が調和し、人々を魅了し続ける価値を生み出すまち。	①「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」と思う区民の割合【%】	区民・事業者・NPO・大学などの連携による協働の度合い	→ 地域の魅力を高める都市づくり	②地区計画の面積【ha】
歴史や文化、引き継がれてきた地域の価値観を大切にしながら、新たな文化を創造し続ける都市にふさわしい美しい景観に包まれたまち	①「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」と思う区民の割合【%】	美しい街並みの形成の程度	→ 地域の特性を生かした新たな景観施策の展開	③景観法に基づく行為の届出件数【件】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」と思う区民の割合【%】	継続	成果指標	27.2	30.3	34.7	35.0	36.0	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0	42.0	43.0	44.0
②	地区計画の面積【ha】	新規	活動指標	347	366	368	368	368	368	368	369	369	369	369	369	373
③	景観法に基づく行為の届出件数【件】	新規	活動指標	49	53	54	60	60	65	65	65	65	65	70	70	70
④																

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区民意識調査の⑧都市再生・交通の同質問に「どちらかというと思う」と回答した人の割合	地域特性に応じた都市づくりの成果を示す指標のため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	地区計画が設定された区域面積の累計	地域特性に応じたきめ細やかな都市づくりの推進状況を示す指標であるため	所管データ
指標③	住民や企業から提出された、景観法に基づく行為の届出件数	地域特性を生かした景観形成の推進状況を示す客観的な指標のため	所管データ
指標④			

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について、肯定的な回答をする区民の割合	成果指標	継続	豊島区基本計画策定のための区民意識調査報告書	16.8%	22.0%	30.0%	都市づくりビジョンに基づき推進するまちづくりの成果を示す指標であるため

施策 6-1-2 池袋副都心の再生

【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

- 国際拠点池袋の魅力を高める文化芸術機能とともに商業機能など多彩な都市機能の高度な集積により国際アート・カルチャー都市のメインステージとして、にぎわいと活力を生み出すまち
- 都市再生事業と連動して災害対応力と都市の環境性能が高まり、都市構造の変化を契機として、居心地の良い新たな都市空間が創出され、住む人、訪れる人が安心して過ごすことができるまち。



【取組方針】

首都機能の一翼を担う国際性の高い拠点の形成

池袋駅周辺は、多彩な都市機能が集積していますが、街区が狭く建物の老朽化が進み更新時期を迎えています。帰宅困難者対策など災害時の防災対応力とエネルギー利用の高効率化を含めた都市機能を高めていく必要があります。

大街区化など街区再編を伴う都市再生事業を地域特性を踏まえて推進し、土地の有効利用や高度な都市機能の集積、防災性の向上、歩行者の安全性の確保、効率的なエネルギー利用とみどりの拠点の確保などを推進していきます。

【主な事業】池袋駅周辺地域拠点まちづくり推進事業/池袋駅周辺地域街区再編まちづくり推進事業

人が主役となる持続可能な都市づくり

池袋駅の東西は、鉄道や商業施設により地上部が分断され、また東口駅前の明治通りの膨大な通過交通により、歩行者の回遊行動が阻害されており、人々のにぎわいをまちへ広げることが課題になっています。

池袋駅前広場を起点に、人の流れを駅の東西や周辺広げる歩行者空間を整備し、南池袋公園など「4つの公園」を回遊性のハブとして、まち全体の回遊性を高めるウォーカブルなまちづくりを推進していきます。

【主な事業】池袋副都心再生推進事業/Hareza池袋・南池袋公園周辺エリア地区計画変更事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
「池袋周辺で、新宿、渋谷などにはない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	41.0	46.0	51.0	池袋駅周辺地域再生委員会等の累計開催数【回】	15	40	65

6-1-2施策内容チェックシート


1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	池袋副都心の再生
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<p>●首都機能の一翼を担う国際性の高い拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇街区再編を伴う都市再生事業の推進 ◇土地の有効利用や高度な都市機能の集積 	<ul style="list-style-type: none"> ◇池袋駅西口駅前街区まちづくりの推進 ◇南池袋二丁目地区のまちづくりの推進 ◇造幣局地区まちづくりの推進
<p>●人が主役となる持続可能な都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇人の流れを駅の東西や周辺広げる歩行者空間の整備 ◇ウォーカブルなまちづくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◇池袋駅東西連絡デッキ整備の推進 ◇池袋駅副都心再生の推進

3. SDGsを意識した点

◇街区再編を伴う都市再生事業の推進やウォーカブルなまちづくりの推進により「働きやすい」「住みやすい」「居心地のよい」まちづくりの推進を目指す。		
<p>意識したゴール</p> 	<p>意識したターゲット</p> <ul style="list-style-type: none"> 8.1 1人当たりの経済成長率の維持 8.2 技術向上・革新による高レベルの経済生産性の達成 11.7 安全で使いやすい緑地や公共スペースを、すべての人が利用できるようにする 17.17 公民、市民のパートナーシップ推進 	<p>意識したローカル指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 8.2 就業者当たりの県内総生産 11.7 面積当たりの公園面積

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

◇「都市再生事業と連動して災害対応力と都市の環境性能が高まる」ことを明記。コロナに向けた取り組みやDX等、社会のニーズに合った都市再生を進めていく。
--

5. 参画と協働を意識した点

◇「街区再編を伴う都市再生事業を地域特性を踏まえて推進する」ことを明記。公民連携による新たな都市空間の創出や、地域活動のマネジメントを実現するためには、公共と民間による計画段階からの連携が不可欠であり、関係事業者や関係権利者との協議や合意形成の場を重視している。

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-1-2	池袋副都心の再生
部課名	都市整備部 都市計画課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
国際拠点池袋の魅力を高める文化芸術機能とともに商業機能など多彩な都市機能の高度な集積により国際アート・カルチャー都市のメインステージとして、にぎわいと活力を生み出すまち	①「池袋周辺で、新宿、渋谷などがない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	他地域からの来街者の満足度、行動様式の多様化	→ 首都機能の一翼を担う国際性の高い拠点の形成	②池袋駅周辺地域再生委員会等の累計開催数【回】
都市再生事業と運動して災害対応力と都市の環境性能が高まり、都市構造の変化を契機として、居心地の良い新たな都市空間が創出され、住む人、訪れる人が安心して過ごすことができるまち。	①「池袋周辺で、新宿、渋谷などがない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	他地域からの来街者の満足度、行動様式の多様化	→ 人が主役となる持続可能な都市づくり	③各種まちづくり協議会等への累計参加者数【人】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	「池袋周辺で、新宿、渋谷などがない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	継続	成果指標	35.2	39.9	41.0	42.0	43.0	44.0	45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	51.0
②	池袋駅周辺地域再生委員会等の累計開催数【回】	新規	活動指標	8	13	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65
③	各種まちづくり協議会等への累計参加者数【人】	新規	活動指標	76	138	218	290	360	430	465	500	530	560	590	620	650
④																

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	⑧都市再生・交通の同質問に「どちらかというと思う」と回答した人の割合	区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標のため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	都市開発の進捗に合わせて実施する関係者との協議回答の累計	関係者との協議の進捗を示す指標であるため	所管課データ
指標③	民間都市再生事業の進捗に合わせた権利者等との協議回数の累計	地域権利者との協議の進捗を示す指標であるため	所管課データ
指標④			

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
「池袋周辺で、新宿、渋谷などがない魅力あるまちづくりが進んでいる」について、肯定的な回答をする区民の割合	成果指標	継続	豊島区基本計画策定のための区民意識調査報告書	23.6%	30.0%	35.0%	区が進めるまちづくりが、区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標であるため

施策 6 - 1 - 3 活力ある地域拠点の再生



【目指すべきまちの姿】SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

- 鉄道駅周辺を中心とした拠点では、都市機能の集積を図り、利便性や交流機能を高めるとともに、地域特性を生かしたイベントを開催するなど、活力と魅力があふれるまち。
- 駅前広場周辺では、歩行経路を拡大し交通結節機能を高め、バリアフリー化によって安全で快適な歩行空間が整備されたまち。

【取組方針】

地域特性を生かした活力ある拠点の再生

池袋駅以外の駅周辺は、地域に親しまれる一定規模の商業業務地を形成していますが、利便性やにぎわいのさらなる向上を図り、地域特性を生かした活力ある交流拠点の再生が求められています。

地域や関係機関と連携しながら駅前広場や周辺施設の再整備を進めるとともに、地域特性を生かした都市機能の更新・集積を推進します。リニューアルした公共空間については、「大塚商人祭り」や「長崎銀座の秋祭り」などのイベントも含め、区民の誰もが安全で快適に利用できるよう維持管理を行います。

【主な事業】大塚駅周辺整備事業

安全で快適な駅前歩行空間の創出

駅前広場周辺では、バリアフリーの基準に沿った歩道等の整備を進めており、引き続き誰もが安全で快適に利用することができる歩行空間の整備が求められています。

駅周辺の利便性や安全性を向上させるため、鉄道事業者や関係機関と協力しながら、歩行者優先の道路整備や自転車駐車場の再整備を進めていきます。

【主な事業】大塚駅周辺整備事業／区道の整備事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	目標値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	目標値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
「駅および駅周辺が整備され、利用しやすくにぎわっている」と思う区民の割合【%】	52.4	57.0	62.0	区の管理する駅前広場におけるイベントの申請件数【回】	17	35	40

6-1-3 施策内容チェックシート




1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	活力ある地域拠点の再生
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
●地域特性を生かした活力ある拠点の再生 ◇駅前広場や周辺施設の再整備 ◇駅前広場等の適切な維持管理	◇大塚駅周辺整備の推進 ◇駅前広場等の適切な維持管理
●安全で快適な駅前歩行空間の創出 ◇バリアフリー化整備の推進	◇バリアフリー化整備の推進

3. SDGsを意識した点

◇目指すべき地域拠点の姿として、都市機能の集積や、安全快適な歩行者空間の整備など、持続可能なまちづくりの方向性を示す。 ◇地域拠点の再生には、地元住民や関係機関など多様な主体と連携しながら取り組む必要性を示す。		
意識したゴール   	意識したターゲット 9.1 質の高い持続可能かつ強靱なインフラの開発 11.7 安全で使いやすい緑地や公共スペースを、すべての人が利用できるようにする 17.17 公民、市民のパートナーシップ推進	意識したローカル指標 9.1.1.1 舗装道路割合 17.17.1 地域サポーターを設置している市区町村の割合

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

◇新型コロナウイルスの影響により、駅前広場において従来開催していたイベントの実施が困難になっている。コロナウイルスが終息した際には地域と連携し、拠点の効果的な活用を進めていく。
--

5. 参画と協働を意識した点

◇大塚駅前広場では、活力ある地域拠点の再生に向け、地域住民や関連企業など多様な主体と協議を行い、施設の活用方法を検討している。

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-1-3	活力ある地域拠点の再生
部課名	都市整備部都市計画課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
鉄道駅周辺を中心とした拠点では、都市機能の集積を図り、利便性や交流機能を高めるとともに、地域特性を生かしたイベントを開催するなど、活力と魅力があふれるまち。	①「駅および駅周辺が整備され、利用しやすくにぎわっている」と思う区民の割合【%】	地域拠点の活力や魅力の度合い	→ 地域特性を生かした活力ある拠点の再生	②区の管理する駅前広場におけるイベントの申請件数【回】
駅前広場周辺では、歩行経路を拡大し交通結節機能を高め、バリアフリー化によって安全で快適な歩行空間が整備されたまち。	①「駅および駅周辺が整備され、利用しやすくにぎわっている」と思う区民の割合【%】	駅周辺の利便性や安全性の度合い	→ 安全で快適な駅前歩行空間の創出	③大塚駅周辺整備事業(北口)で整備された面積【㎡】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	「駅および駅周辺が整備され、利用しやすくにぎわっている」と思う区民の割合【%】	継続	成果指標	49.1	49.5	52.4	53.0	54.0	55.0	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0	61.0	62.0
②	区の管理する駅前広場におけるイベントの申請件数【回】	新規	活動指標	32	32	17	20	32	33	34	35	36	37	38	39	40
③	大塚駅周辺整備事業(北口)で整備された面積【㎡】	新規	活動指標	0	0	7,800	7,800	10,550	13,350	14,200	21,700	21,700	21,700	21,700	21,700	21,700
④																

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区民意識調査の⑧都市再生・交通の同質問に「どちらかというと思う」と回答した人の割合	まちづくりの発展状況を示す客観的な指標のため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	区の管理する駅前広場におけるイベントの申請件数	区の管理する駅前広場における魅力や利便性の変化を示す指標のため	所管課データ
指標③	大塚駅周辺整備事業(北口)で整備された面積の累計	歩道整備の進捗を分かりやすく示す指標のため	所管課データ
指標④			

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
「駅および駅周辺が整備され、利用しやすくにぎわっている」について、肯定的な回答をする区民の割合	成果指標	継続	豊島区基本計画策定のための区民意識調査報告書	31.8%	47.1%	52.1%	区が進めるまちづくりが、区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標であるため

施策6-1-4 居心地が良く歩きたくなる空間づくり



【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

- 道路や公園が周囲の都市施設と一体的に連動し、地域の魅力やにぎわいが向上することで、多くの住民や来街者を惹きつけるまち。
- 公民のパブリックな空間を、ウォーカブルな人中心の空間へ転換**することで、多様な人々の出会いや交流を通じたイノベーションの創出や、人中心の豊かな生活が実現したまち。

【取組方針】

まちのにぎわい向上を図るエリアマネジメントの推進

道路や公園といった公共施設と民地のパブリックスペースを一体的に管理・活用する、エリアマネジメントに基づく主体的な組織の確立と、まち全体の魅力向上や新たなにぎわいの創出が必要です。

グリーン大通りの社会実験や地域拠点の価値を高める自主的なエリアマネジメントの運営を支援するとともに、**4つの公園の運営主体などの各エリアマネジメント団体の相互連携を深め**、効果的に文化の魅力を発信し、持続可能なまちづくりを推進します。

【主な事業】 Hareza池袋エリアマネジメント推進事業等

ウォーカブルなまちづくりの推進

池袋駅周辺に完成した「4つの公園」やHareza池袋を拠点として、池袋副都心全域での魅力向上を図るとともに、居心地が良く歩きやすい空間をまちなかに整備し、回遊性や利便性を更に高める必要があります。

地区計画を活用した歩道空間の拡幅や「アート・カルチャースポット」の整備など、**公民連携により快適で多様な都市空間を形成**するとともに、道路空間と一体となったにぎわいや緑の創出、ユニバーサルデザインによるまちづくりを進め、まちを回遊する歩行者ネットワークを整備します。

【主な事業】 Hareza池袋・南池袋公園周辺エリア地区計画変更事業/庁舎跡地・新庁舎周辺道路整備事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	目標値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
「池袋駅を中心として、居心地が良く歩きたくなるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	62.4	67.0	70.0	エリアマネジメントの団体数【団体】	2	5	6

6-1-4施策内容チェックシート




1. 施策名変更

	新	旧
施策名	居心地が良く歩きたくなる空間づくり	新・旧庁舎を活用した文化にぎわいの創出
【変更理由】 ◇「新・旧庁舎」という呼称を現在では行っていないため。また、オープンカフェやマルシェによる道路空間の活用、エリアマネジメントによる新たな管理手法の導入等、ウォーカブルな街づくりを推進する施策体系を、日本語表記で分かりやすく示した。		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
●まちの賑わい向上を図るエリアマネジメントの推進 ◇各拠点におけるエリアマネジメントの推進・相互連携	◇新庁舎周辺まちづくりの推進
●ウォーカブルなまちづくりの推進 ◇ウォーカブルなまちづくりの推進	◇旧庁舎跡地の活用と周辺まちづくりの推進 ◇旧庁舎跡地・新庁舎周辺道路整備の推進

3. SDGsを意識した点

◇各拠点のエリアマネジメント団体と豊島区が一体的となり、まちの魅力向上や賑わいの創出に取り組むことで、都市施設の持続可能な維持管理手法を確立する。 ◇誰もが歩きやすい歩行者空間を整備することで、多様な人々が出会い交流する場が生まれる。		
意識したゴール   	意識したターゲット 9.1 質の高い持続可能かつ強靱なインフラの開発 11.7 安全で使いやすい緑地や公共スペースを、すべての人が利用できるようにする 17.17 公民、市民のパートナーシップ推進	意識したローカル指標 9.1.1.1舗装道路割合 11.7.1.7人口当たりの公園数 11.7.1.8人口当たりの公園面積 11.7.1.9面積当たりの公園面積 17.17.1地域サポーターを設置している市区町村の割合

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

◇新型コロナウイルス感染予防の観点から、換気性の良い屋外空間での活動需要が高まっている。時代のニーズに応えるように快適な屋外の公共空間整備に取り組んでいく。
--

5. 参画と協働を意識した点

◇4つの公園やHareza池袋、グリーン大通りの各拠点で活動するエリアマネジメント組織と一体となって、新たな交流やにぎわいを創出し、地域の魅力をまち全体に広げていくことを意識している。
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-1-4	居心地が良く歩きたくなる空間づくり
部課名	都市整備部 都市計画課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
道路や公園が周囲の都市施設と一体的に連動し、地域の魅力やにぎわいが向上することで、多くの住民や来街者を惹きつけるまち。	①「池袋駅を中心として、居心地が良く歩きたくなるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	エリアマネジメントの取り組みによって生じた賑わいの規模	→ まちの賑わい向上を図るエリアマネジメントの推進	②エリアマネジメントの団体数【団体】
公民のパブリックな空間を、ウォーカブルな人中心の空間へ転換することで、多様な人々の出会いや交流を通じたイノベーションの創出や、人中心の豊かな生活が実現したまち。	①「池袋駅を中心として、居心地が良く歩きたくなるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	歩行空間の整備による歩きやすさの度合い	→ ウォーカブルなまちづくりの推進	③池袋駅周辺ウォーカブルまちづくり検討PT累計開催回数【回】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名	区分	指標種別	2018年度～2030年度実績・目標値												
			2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
① 「池袋駅を中心として、居心地が良く歩きたくなるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	新規	成果指標	55.1	55.7	62.4	63.0	64.0	65.0	66.0	67.0	68.0	68.5	69.0	69.5	70.0
② エリアマネジメントの団体数【団体】	新規	活動指標	1	2	2	2	3	4	5	5	6	6	6	6	6
③ 池袋駅周辺ウォーカブルまちづくり検討PT累計開催回数【回】	新規	活動指標	0	0	3	6	9	12	15	18	21	24	27	30	33
④															

指標	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区民意識調査の⑧都市再生・交通の同質問に「どちらかというと思う」と回答した人の割合	区が進めるまちづくりが、区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標であるため(計画体系見直しに伴う区民意識調査項目の修正に伴い2021年より本指標を用いる)	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	エリアマネジメント団体数の累計	SDGs未来都市等提案書に記載した活動指標	所管課データ
指標③	池袋駅周辺ウォーカブルまちづくり検討PTの開催回数の累計	ウォーカブルなまちづくりを推進するための活動量を示す指標であるため	所管課データ
指標④			

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
「新庁舎をはじめとして、池袋駅を中心とした広範なまちづくりが進んでいる」について、肯定的な回答をする区民の割合	成果指標	廃止	豊島区基本計画策定のための区民意識調査報告書	31.8%	43.4%	48.4%	区が進めるまちづくりが、区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標であるため

施策6-2-1 安全・安心に住み続けられる住まいづくり



【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

- 子育てファミリー世帯の定住が進み、高齢者等の居住の安定が図られ、住み慣れた地域で暮らし続けられるまち。
- 社会的に高齢者等の入居を拒否する風潮が薄れ、高齢者など住宅確保要配慮者も安心して入居できるまち。

【取組方針】

住み慣れた地域での安定した居住の確保

ファミリー世帯は増えておりますが、全世帯数の2割程度で推移し、65歳以上の単身高齢者の割合は高齢者全体の33.8%となっているなど、活力あるコミュニティを形成するためには、バランスの取れた世帯構成が必要です。

子育てファミリー世帯の定住化を促進するとともに、取り壊し等により現在の住居に住み続けることが困難となった方の居住の安定を図り、ライフステージ・ライフスタイルに応じた住宅の供給誘導及び安心居住を支援します。

【主な事業】 高齢者世帯等住み替え家賃助成事業／子育てファミリー世帯家賃助成事業

安心して暮らせる住まいの提供

単身高齢者のうち民間借家に住む割合は、38.4%で、23区内で最も高い状況です。賃貸物件オーナーの約8割が高齢者世帯の入居に拒否感があるなど、民間賃貸住宅の確保に向けた制度の充実が必要です。

不動産団体や居住支援協議会と連携し、賃貸物件オーナーの不安解消や理解促進に努め、**高齢者、障害者、子育て世帯等、住宅確保要配慮者の入居を拒まない賃貸住宅（セーフティネット住宅）の登録を促進**します。

【主な事業】 住宅セーフティネット事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
「現在住んでいる地域に住み続けたい」と思う区民の割合【%】	36.7	41.0	46.0	家賃低廉化補助件数 (累計)【件】	2	17	32

6-2-1 施策内容チェックシート


1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	安全・安心に住み続けられる住まいづくり
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
● 住み慣れた地域での安定した居住の確保 ◇ 住み慣れた地域での安定した居住の確保 ◇ 高齢化に対応した居住支援の充実	◇ 住み慣れた地域での安定した居住の確保 ◇ 高齢化に対応した居住支援の充実
● 安心して暮らせる住まいの提供 ◇ 安心して暮らせる住まいの提供	◇ 安心して暮らせる住まいの提供

3. SDGsを意識した点

◇ 単身高齢者等の住宅確保要配慮者の入居支援、セーフティネット住宅の確保のため、豊島区居住支援協議会や区内で居住支援活動を展開する法人・団体等との連携を意識した。 ◇ 目指すべきまちの姿として「適切・安全かつ安価な住宅をすべての人が利用できるようにする」など、SDGsの視点を意識した。		
意識したゴール 	意識したターゲット 11.1 適切・安全かつ安価な住宅、基本的サービスをすべての人が利用できるようにする	意識したローカル指標 11.1 最低居住面積水準以下世帯割合

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

◇ ICTを用いた高齢者等に対する良質な入居支援サービス（見守りサービス等）の周知を図り、高齢化に対応した居住支援の充実を目指す。

5. 参画と協働を意識した点

◇ 安心して暮らせる住まいの提供に関しては、行政のみではなく、豊島区居住支援協議会や区内で居住支援活動を展開する法人・団体等と一緒に取り組んでいく。
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-2-1	安全・安心に住み続けられる住まいづくり
部課名	都市整備部 住宅課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
子育てファミリー世帯の定住が進み、高齢者等の居住の安定が図られ、住み慣れた地域で暮らし続けられるまち。	①「現在住んでいる地域に住み続けたい」と思う区民の割合【%】	住宅相談グループの福祉部門への移管による福祉との相乗効果	→ 住み慣れた地域での安定した居住の確保	②家賃助成件数(累計)【件】
社会的に高齢者等の入居を拒否する風潮が薄れ、高齢者など住宅確保要配慮者も安心して入居できるまち。	③セーフティネット登録住宅の登録件数【件】	豊島区居住支援協議会や、区内で居住支援活動を展開する法人・団体等との連携による相乗効果	→ 安心して暮らせる住まいの提供	④家賃低廉化補助件数(累計)【件】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名	区分	指標種別	2018年度～2030年度												
			2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
① 「現在住んでいる地域に住み続けたい」と思う区民の割合【%】	新規	成果指標	40.6%	39.3%	36.7%	37.0%	38.0%	39.0%	40.0%	41.0%	42.0%	43.0%	44.0%	45.0%	46.0%
② 家賃助成件数(累計)【件】	継続	活動指標	391	447	506	560	620	680	740	800	860	920	980	1,040	1,100
③ セーフティネット登録住宅の登録件数【件】	新規	成果指標	1	70	521	530	540	550	560	570	580	590	600	610	620
④ 家賃低廉化補助件数(累計)【件】	新規	活動指標	0	0	2	5	8	11	14	17	20	23	26	29	32

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区民意識調査において「現在の地域に住み続けたい」と回答する区民の割合	住み慣れた地域で暮らし続けられることを示す指標であるため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	高齢者世帯等住み替え家賃助成事業、子育てファミリー世帯家賃助成事業における新規の家賃助成件数	良質な住宅への誘導または居住改善を図り、住み慣れた地域で暮らし続けられることを示す指標であるため	所管課データ
指標③	豊島区におけるセーフティネット住宅の登録件数	セーフティネット住宅登録制度の成果を示す客観的な指標となるため	所管課データ
指標④	住宅セーフティネット事業における家賃低廉化補助件数	事業の進捗状況を示す客観的な指標となるため	所管課データ

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
家賃助成件数(累計)	活動指標	継続	所管課データ	173件	383件	558件	家賃助成は、良質な住宅への誘導または居住改善を図り、住み慣れた地域で居住を続けることを可能とする指標であるため
ファミリー世帯の構成割合	成果指標	廃止	所管課データ、国勢調査	22.2% <small>※平成22年国勢調査</small>	25.0%	28.0%	世帯類型を比較から、世代及び世帯ごとの特性を生かした適切な住宅施策が展開されているのか、また住み続けられているのかを把握する指標となるため



施策6-2-2 良質な住宅ストックの形成

【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

- 空き家が有効的に利活用され、快適な居住環境と多様で良質な住宅がバランス良く形成されているまち。
- 地域の特性に応じた安全で良質なマンションストックが形成され、マンションに暮らす多様な区民が、都市の利便性や快適性を享受しながら、豊かな生活を営んでいるまち。

【取組方針】

空き家の利活用の推進

豊島区の空き家率は13.3%と23区中最も高くなっており、H28年度の空き家所有者意向調査によれば、空き家の管理・活用意識が希薄化傾向にあり、住宅ストックの適切な維持管理を促進することが必要です。

民間で空き家活用に取り組んでいる団体や居住支援協議会との連携を促進し、空き家セミナーの実施や空き家利活用のスキームの情報提供を進め、空き家・遊休不動産の活用を推進し身近な住環境の改善に取り組みます。

[主な事業] 空き家活用事業/地域貢献型空き家利活用事業

マンションの適正管理の推進

マンション管理推進条例に基づく対象マンションの約3割が管理状況届出書の提出が無く、また区内の分譲マンションのうち築40年を超える高経年マンションも250棟を超え、老朽化も進行するなどの確な現状把握が必要です。

届出がない分譲マンションへの訪問調査や新築マンションへの届出勧奨を強化することにより、届出率を向上させ管理不全の予防や適正な維持管理意識の向上を図り快適なマンション居住を支援します。

[主な事業] マンション適正管理支援事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
管理状況届出書届出率 (合算)【%】	74.2	80.0	85.0	地域貢献型空き家利活用事業に おける補助件数(累計)【件】	3	10	20

6-2-2施策内容チェックシート


1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	良質な住宅ストックの形成
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<p>●空き家の利活用の推進 ◇空き家の利活用の推進</p>	◇リノベーションまちづくりの推進
<p>●マンションの適正管理の推進 ◇マンションの適正管理の推進</p>	<p>◇マンションの適正管理の推進 ◇住宅マスタープラン重点プロジェクトの推進</p>

3. SDGsを意識した点

<p>◇空き家オーナーと空き家の活用を希望する団体とのマッチングの機会を増やすことで、民間で空き家活用に取り組んでいる人達の連携を強化することを意識した。 ◇目指すべきまちの姿として「適切・安全かつ安価な住宅」など、SDGsの視点を意識した。</p>		
<p>意識したゴール</p> 	<p>意識したターゲット</p> <p>11.1 適切・安全かつ安価な住宅、基本的サービスをすべての人が利用できるようにする</p>	<p>意識したローカル指標</p> <p>11.1 最低居住面積水準以下世帯割合</p>

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

<p>◇新型コロナの影響により、空き家の利活用の相談件数も大きく減っている。コロナ後を見据え、時代のニーズに合った空き家の活用支援を目指す。</p>
--

5. 参画と協働を意識した点

<p>◇分譲マンションにおいて、管理組合が管理当事者として活発に活動できるよう、マンションの適正な管理の促進に向けて、これまでよりも踏み込んで管理組合を支援していくことを明記した。</p>
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-2-2	良質な住宅ストックの形成
部課名	都市整備部 住宅課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
空き家が有効的に利活用され、快適な居住環境と多様で良質な住宅がバランス良く形成されているまち。	①「単身向け、ファミリー向けなど、良質な住宅がバランスよく供給されている」について、「そう思う」「どちらともいえない」と回答する区民の割合【%】	民間で空き家活用に取り組んでいる人達との連携強化による相乗効果	→ 空き家の利活用の推進	②地域貢献型空き家利活用事業における補助件数(累計)【件】
地域の特性に応じた安全で良質なマンションストックが形成され、マンションに暮らす多様な区民が、都市の利便性や快適性を享受しながら、豊かな生活を営んでいるまち。	③管理状況届出書届出率(合算)【%】	分譲マンションにおいて管理組合が管理当事者として、活発に活動している。	→ マンションの適正管理の推進	④分譲マンションに対する訪問調査件数(累計)【件】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名	区分	指標種別	2018年度～2030年度実績・目標												
			2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
① 「単身向け、ファミリー向けなど、良質な住宅がバランスよく供給されている」について、「そう思う」「どちらともいえない」と回答する区民の割合【%】	継続	成果指標	66.2%	68.7%	71.1%	71.2%	71.4%	71.6%	71.8%	72.0%	72.2%	72.4%	72.6%	72.8%	73.0%
② 地域貢献型空き家利活用事業における補助件数(累計)【件】	新規	活動指標	0	2	3	4	5	6	8	10	12	14	16	18	20
③ 管理状況届出書届出率(合算)【%】	新規	成果指標	68.4%	68.5%	74.2%	76.0%	77.0%	78.0%	79.0%	80.0%	81.0%	82.0%	83.0%	84.0%	85.0%
④ 分譲マンションに対する訪問調査件数(累計)【件】	新規	活動指標	116	186	289	400	500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300

指標	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区民意識調査の⑧都市再生・交通の同質問に「どちらかというと思う」「どちらともいえない」と回答した人の割合	世帯人数に応じた住宅、またはより良質な住宅に居住していることを示す指標であるため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	地域貢献型空き家利活用事業における補助件数	空き家等が有効活用されていることを示す指標であるため	所管課データ
指標③	管理状況届出書の届出義務があるマンションのうち、届出がされた割合	豊島区の方譲マンションのうち、区が管理状況を把握している割合を示す成果指標であるため。	所管課データ
指標④	マンション管理支援チーム派遣事業における職員及び専門家による分譲マンション訪問調査件数	分譲マンションの現状を把握し、管理状況届出書の届出率を上げるための行動指標であるため。	所管課データ

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
「単身向け、ファミリー向けなど、良質な住宅がバランスよく供給されている」について、「そう思う」「どちらともいえない」と回答する区民の割合	成果指標	継続	協働のまちづくりに関する区民意識調査 報告書	61.0%	67.0%	72.0%	世帯人数に応じた住宅、またはより良質な住宅に居住していることを示す指標であるため
民間まちづくり会社によるリノベーション手法を用いた空き家の事業化件数(累計)	成果指標	廃止	所管課データ	0件	100件	200件	事業数は、区民の住宅ニーズに応じて、空き家が有効活用されていることを示す指標であるため

施策6-3-1 総合交通戦略の推進



【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

- 都市計画道路の推進により交通環境が整備され、すべての区民が安心して容易に外出ができ、交通に起因する環境負荷の低減とともに、快適な生活空間が確保された活力や魅力のあるまち。
- 道路空間におけるウェイトを自動車から歩行者に振り替え、拡充された歩行者空間により回遊性の高く、居心地が良いウォーカブルなまち。

【取組方針】

まちづくりと連携した総合的かつ戦略的な交通政策の創出

都市計画道路の整備促進による交通環境の変化を捉えて、踏切解消やバス路線の再編などを検討するとともに、まちの価値や魅力を高める交通環境の整備も含めた、新たな交通ネットワーク網の形成していく必要があります。

計画道路事業の推進とともに交通ネットワークの改善効果が期待されます。人に優しい新たな交通環境の構築に向けて交通事業者と連携しつつ、IKEBUSをはじめ新たなモビリティの導入など、様々な交通サービスの一層の充実に取り組めます。また、まちづくりと連動して、新駅設置に向け関係機関と協議していきます。

【主な事業】池袋副都心交通戦略の推進

誰もが歩きたくなる歩行者空間の創出

池袋駅周辺では、南北区道の歩行者優先化や駐車場整備計画の策定、駐車場地域ルール of 運用を開始した一方で、依然まちに流入する車両と歩行者が輻輳しており、歩行者の安全・安心な空間確保が必要です。

池袋副都心の都市再生の推進により、大街区化や明治通りのクルドサックによる歩行者空間の拡大化の検討を行うとともに、駐車場地域ルールに基づく駐車場整備台数の適正化や荷捌きルールの活用を促進し、快適な歩行者空間の創出に取り組めます。

【主な事業】池袋副都心交通戦略の推進/池袋地区駐車場地域ルールの運用/池袋副都心移動システムの推進

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
「鉄道・バス等の交通が便利である」と思う区民の割合【%】	85.8	88.0	90.0

活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
区内の都市計画道路の整備状況【%】	65.9	82.2	90.0

6-3-1 施策チェックシート


1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	総合交通戦略の推進
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
●まちづくりと連携した総合的かつ戦略的な道路交通空間の創出 ◇地域交通政策の推進 ◇地域公共バスの支援 ◇副都心新駅設置の推進	◇地域交通政策の推進 ◇地域公共バスの支援 ◇副都心新駅設置の推進
●誰もが歩きたくなる歩行者空間の創出 ◇池袋副都心交通戦略の推進	◇池袋副都心交通戦略の推進

3. SDGsを意識した点

◇目指すべきまちの姿として「環境にやさしい脱炭素型のモビリティ」などSDGsの視点を盛り込んだ。 ◇取組方針として民間企業との協働を意識した。 ◇自動車空間から歩行者空間に転換することにより、公共交通機関の利用、さらに人々が歩いてまちへ出る機会を促進している。		
意識したゴール 	意識したターゲット 3.6 道路交通事故による死傷者数の半減 7.3 エネルギー効率の改善率を倍増 8.1 1人当たりの経済成長率の維持 9.4 クリーン技術導入拡大 11.2 安全かつ安価で利用しやすい持続可能な輸送システムの提供 17.7 公民、市民のパートナーシップ推進	意識したローカル指標 9.4 県内総生産当たりのCO2排出量 11.2 鉄道・電車・バスの利用割合

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

◇安全・安心な歩行者空間の確保を併せ、電気バスであるとともに通気性の良さを活かした低燃費な車両であるIKEBUSを、池袋駅周辺の集客状況に合わせて柔軟な運行を行うことで、多くの人々が快適にまちを回遊することができる。
--

5. 参画と協働を意識した点

◇IKEBUSの持続可能な運行のためにはランニングコストの削減が欠かせない。そのため、IKEBUSの運行を応援するサポーター企業からの支援、サポーター企業と協働したPR活動などを取り組みに盛り込んだ。また、豊島区全体の価値を向上するためサポーター企業や旅行会社等とのコラボ企画を実施している。
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-3-1	総合交通戦略の推進
部課名	都市整備部都市計画課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
都市計画道路の推進により交通環境が整備され、すべての区民が安心して容易に外出ができ、交通に起因する環境負荷の低減とともに、快適な生活空間が確保された活力や魅力のあるまち。	①「鉄道・バス等の交通が便利である」と思う区民の割合【%】	交通弱者の移動手段としてのサービス水準などは測れない	→ まちづくりと連携した総合的かつ戦略的な交通政策の創出	②区内の都市計画道路の整備状況【%】
道路空間におけるウエイトを自動車から歩行者に振り替え、拡充された歩行者空間により回遊性の高く、居心地が良いウォークアブルなまち。	③池袋駅乗降客数【万人】 ※2020実績値の発表(コロナ禍での大幅減)に伴い、目標値の設定変更または指標変更を検討中	池袋の来訪客と乗り換え客の区別ができず、どれくらいの人がまちに流れているかは測れない。	→ 誰もが歩きたくなる歩行者空間の創出	④IKEBUS(乗り合い)の年間乗車人数【人】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	「鉄道・バス等の交通が便利である」と思う区民の割合【%】	継続	成果指標	86.3	86.1	85.8	86.0	86.5	87.0	87.5	88.0	88.0	88.5	89.0	89.5	90.0
②	区内の都市計画道路の整備状況【%】	継続	活動指標	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9	70.0	82.2	85.5	87.0	88.0	89.0	90.0
③	池袋駅乗降客数【万人】	新規	成果指標	268	265	179	265	267	271	273	275	276	277	278	279	280
④	IKEBUS(乗り合い)の年間乗車人数【人】	新規	活動指標	0	33,800	55,700	120,000	121,000	131,000	142,000	153,000	164,000	175,000	186,000	197,000	208,000

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区民意識調査の⑧都市再生・交通の同質問に「どちらかというと思う」と回答した人の割合	誰もが利用しやすく移動しやすい交通体系が、区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標であるため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	都市計画道路の全体計画延長に対する、整備完了の累計延長の割合	都市骨格軸となる都市計画道路は、周辺道路の連携と交流を支え、さらなる利便性や安全性を向上する交通体系のあり方の指標であるため	所管課データ
指標③	鉄道各社が発表する池袋駅の各年度乗降客数の合計	来街者の増加を示す客観的な指標となるため	所管課データ
指標④	WILLER株式会社からの報告による	まちを回遊する新たな交通機能としてIKEBUSが活用されていることを示す指標となるため	所管課データ

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
「鉄道・バス等の交通が便利である」について、肯定的な回答をする区民の割合	成果指標	継続	豊島区基本計画策定のための区民意識調査報告書	84.0%	87.0%	90.0%	誰もが利用しやすく移動しやすい交通体系が、区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標であるため
区内の都市計画道路の整備状況	活動指標	継続	所管課データ	64.5%	86.7%	90.0%	都市骨格軸となる都市計画道路は、周辺地域の連携と交流を支え、さらなる利便性や安全性を向上する交通体系のあり方の指標であるため

施策 6 - 3 - 2 道路・橋梁の整備と維持保全



【目指すべきまちの姿】SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

- 温度化対策に対応した道路整備が推進され、環境に配慮した、安全・安心な交通と区民生活が確保されているまち
- 地域間を結ぶ重要な交通路である道路橋が健全な状態で維持管理されていることにより、平時における交通の安全が確保され、災害時には復旧・復興が迅速に行えるまち

【取組方針】

遮熱性舗装の積極的な整備

コンクリート構造物や道路舗装などの蓄熱による、ヒートアイランド現象が深刻化しており、その対策が求められています。

幹線道路の再整備を行う際は、温度低減の効果が期待できるため遮熱性舗装を、日照条件などを考慮して効果的に進めていきます。

〔主な事業〕 区道の整備事業

道路橋の定期点検の実施と長寿命化修繕計画の改訂

今後20年間に、大半の管理橋梁が補修又は架け替え時期を迎えることから、長寿命化修繕計画の必要性は増しています。

5年ごとの定期点検を確実に実施し、管理橋梁の劣化・損傷の把握及び予測を行うとともに、橋梁の長寿命化修繕計画を改訂し、的確に修繕や架け替えを進め、管理コストの低減と橋梁の長寿命化を図ります。

〔主な事業〕 池袋大橋、西巣鴨橋の長寿命化

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
遮熱性舗装の累計面積【㎡】	38,757	46,000	53,500

活動指標	現状値 (2021年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
改修・補修済の橋梁数【橋】	12	12	14

6-3-2 施策内容チェックシート


1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	道路・橋梁の整備と維持保全
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<p>◇遮熱性舗装の積極的な整備</p> <p>◇区道の高機能化・バリアフリー化の推進</p>	<p>◇区道の高機能化・バリアフリー化の推進</p>
<p>●道路橋の定期点検の実施と長寿命化修繕計画の策定</p> <p>◇区道・橋梁等維持管理の充実</p> <p>◇都市計画道路整備の推進</p>	<p>◇区道・橋梁等維持管理の充実</p> <p>◇都市計画道路整備の推進</p>

3. SDGsを意識した点

<p>◇目指すべきまちの姿として「災害に強いインフラの構築」「環境に配慮したグリーンインフラ基盤の整備」や「歩行者・障がい者等における交通安全の向上」など、SDGsの視点を盛り込んだ。</p>		
<p>意識したゴール</p> 	<p>意識したターゲット</p> <p>9.1 質の高い持続可能かつ強靱なインフラの開発</p> <p>11.7 安全で使いやすい緑地や公共スペースを、すべての人が利用できるようにする。</p> <p>13.2 気候変動対策を政策・戦略に盛り込む</p>	<p>意識したローカル指標</p> <p>9.1 舗装道路割合</p>

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

<p>◇路面下空洞が原因の大規模な陥没事故が各地で問題化している。道路の管理にあたっては、AI技術を駆使した最新のICTを積極的に活用した予防保全型管理を目指す。</p>

5. 参画と協働を意識した点

<p>◇ユニバーサルデザインの道路づくりは、様々な立場の様々な意見を反映することが不可欠であることから、整備にあたっては行政のみではなく、広く関係団体の意見を聴取して行く。</p>
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-3-2	道路・橋梁の整備と維持保全
部課名	都市整備部 道路整備課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
温暖化対策に対応した道路整備が推進され、環境に配慮した、安全・安心な交通と区民生活が確保されているまち	①遮熱性舗装の累計面積【㎡】		→ 遮熱性舗装の積極的な整備	②遮熱性舗装の工事件数【件】
地域間を結ぶ重要な交通路である道路橋が健全な状態で維持管理されていることにより、平時における交通の安全が確保され、災害時には復旧・復興が迅速に行えるまち	③管理橋梁の健全度A(損傷が特に認められない状態)の割合【%】		→ 道路橋の定期点検の実施と長寿命化修繕計画の改訂	④改修・補修済の橋梁数【橋】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	遮熱性舗装の累計面積【㎡】	継続	成果指標	35,251	35,998	38,757	40,000	41,500	43,000	44,500	46,000	47,500	49,000	50,500	52,000	53,500
②	遮熱性舗装の工事件数【件】	新規	活動指標	1	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
③	管理橋梁の健全度A(損傷が特に認められない状態)の割合【%】	継続	成果指標	85	92	92	92	92	92	92	92	92	100	100	100	100
④	改修・補修済の橋梁数【橋】	新規	活動指標	11	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	14

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	遮熱性舗装の年間施工面積の累計	ヒートアイランド対策が進展していることを示す指標のため	所管課データ
指標②	遮熱性舗装の年間工事件数の累計	ヒートアイランド対策に取り組んでいることを示す指標のため	所管課データ
指標③	全管理橋梁から健全な橋梁数を除して得られた割合	道路橋が適切に維持管理されていることを示す指標のため	所管課データ
指標④	管理橋梁14橋のうち、長寿命化修繕計画に基づき改修・補修工事の完了した橋梁数	予防保全型管理が実施されていることを示す指標のため	所管課データ

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
管理橋梁の健全度Aの割合	成果指標	継続	所管課データ	70.0%	90.0%	100.0%	道路橋が適切に維持管理されていることを示す指標のため
遮熱性舗装を実施した累計面積	成果指標	継続	所管課データ	17,931㎡	30,000㎡	42,500㎡	歩行空間の安全性及び快適性をめざし、人と地球環境にやさしい道路整備を示す指標のため

施策 6-3-3 自転車利用環境の充実



【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

- 交通実態に即した自転車走行環境が整備され、歩行者も、自転車も、安全に、安心して通行できるまち。
- すべての自転車利用者が路上に自転車を放置することなく、自転車駐車場等に適切に駐輪することにより、区民、来街者及び自転車等が安全に、安心して通行できるまち。

【取組方針】

自転車走行環境の整備の推進

安全な自転車走行環境を早期に実現するため、自転車ナビラインによる整備が求められています。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会情勢の変化を踏まえつつ、これまでの整備路線の効果や課題を検証し、新たな自転車走行環境の整備を進めることで、自転車利用を推進します。

〔主な事業〕 自転車走行空間整備事業

放置自転車等の防止対策の推進

自転車の大型化等多様化する駐輪場利用ニーズや、夕方から夜間にかけての自転車の短時間放置への対応が求められています。

駐輪場における大型自転車等のスペース確保等、駐輪場利用サービスの充実を図るとともに、放置自転車の多い時間帯や地域への重点的な撤去活動や放置防止・駐輪場利用の啓発活動を推進します。

〔主な事業〕 放置自転車等対策推進事業／自転車駐車場管理運営事業／自転車駐車場等の整備事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
自転車走行環境整備済路線 【km】	2.3	23.1	33.5	駐輪場における子供乗せ大型 自転車等スペース確保【台】	292	313	330

6-3-3 施策内容チェックシート


1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	自転車利用環境の充実
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<ul style="list-style-type: none"> ●自転車走行環境の整備の推進 ◇自転車走行環境の整備の推進 	◇自転車道等利用環境の整備の推進
<ul style="list-style-type: none"> ●放置自転車等の防止対策の推進 ◇駐輪施設の整備と管理運営の推進 ◇放置自転車等の防止対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◇駐輪施設の整備と管理運営の推進 ◇放置自転車等の防止対策の推進

3. SDGsを意識した点

<ul style="list-style-type: none"> ◇目指すべきまちの姿として、身近な交通手段である自転車を通じた「住み続けられるまちづくりを」等の視点を盛り込んだ。 ◇各取組を実施する際には、駐輪場運営主体、町会・商店会・警察・企業などの関係団体と連携し、ともに取り組む。 		
<p>意識したゴール</p> 	<p>意識したターゲット</p> <ul style="list-style-type: none"> 9.1 質の高い持続可能なインフラの開発 11.2 安全かつ安価で利用しやすい持続可能な輸送システム 11.7 安全で包括的な公共スペースへの普遍的アクセス 	<p>意識したローカル指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 9.1 駐輪場における子供乗せ大型自転車等スペース確保 11.2 自転車走行環境の整備の推進 11.7 駅周辺の自転車等乗り入れ台数に対する放置自転車等台数の割合

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

<ul style="list-style-type: none"> ◇より利便性の高い駐輪場利用サービスの検討にあたり、ICT活用による満空システムやキャッシュレス決済等導入を検討する。 ◇公共交通機関から自転車への乗り換えや自転車配送業の一般化など、自転車利用者の意識の変化に的確に対応し、実効性のある放置防止・駐輪場利用のルール・マナーの啓発活動を実施する。
--

5. 参画と協働を意識した点

<ul style="list-style-type: none"> ◇駐輪場利用サービスの向上については、ICT活用の専門知識を有する指定管理者と連携する。 ◇放置防止・駐輪場利用のルール・マナーの啓発活動については、地域の町会・商店会・警察・企業などと連携し取り組む。
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-3-3	自転車利用環境の充実
部課名	都市整備部土木管理課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
交通実態に即した自転車走行環境が整備され、歩行者も、自転車も、安全に、安心して通行できるまち。	①自転車走行環境整備済み路線【km】		→ 自転車走行環境の整備の推進	②自転車等駐車対策協議会開催回数【回】
すべての自転車利用者が路上に自転車を放置することなく、自転車駐輪場等に適切に駐輪することにより、区民、来街者及び自転車等が安全に、安心して通行できるまち。	③駅周辺の自転車等乗り入れ台数に対する放置自転車等台数の割合(放置台数/(放置台数+駐輪場利用台数))【%】		→ 放置自転車等の防止対策の推進	④駐輪場における子供乗せ大型自転車等スペース確保【台】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	自転車走行環境整備済み路線【km】 <small>※計画見直しに伴い、目標値の変更の可能性あり</small>	新規	成果指標	0.7	1.7	2.3	2.3	7.5	12.7	17.9	23.1	28.3	33.5	33.5	33.5	33.5
②	自転車等駐車対策協議会開催回数【回】	新規	活動指標	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
③	駅周辺の自転車等乗り入れ台数に対する放置自転車等台数の割合【%】	継続	成果指標	3.8	3.7	5.2	4.6	4.2	3.8	3.4	3.0	2.8	2.6	2.4	2.2	2.0
④	駐輪場における子供乗せ大型自転車等スペース確保【台】	新規	活動指標	273	292	292	297	302	305	308	313	316	321	324	327	330

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	令和9年度(2027年度)の目標値33.5kmをゴールとして、これまでの実績値より案分して設定した。	平成30年度(2018年度)に策定した「自転車走行環境計画」に基づき、整備を進めているため。	所管課データ
指標②	自転車等駐車対策協議会の年間の開催回数を設定した。	本協議会において、計画・事業の検証を行っており、計画見直しに向けた検討も行うため。	所管課データ
指標③	毎年10月に実施する駅周辺の実態調査による自転車等乗り入れ台数(放置台数+駐輪場利用台数)に対する放置自転車等台数の割合を算出した。	毎年継続して調査を実施しており、放置台数と駐輪場利用台数が密接に関係しているため。	都内駅周辺の放置自転車等の実態調査
指標④	これまでの実績により、増加可能台数を想定して算出した。	近年の自転車の大型化に伴い駐輪場の利用環境を充実するため。	所管課データ

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
駅周辺の自転車等乗り入れ台数に対する放置自転車等台数の割合【放置台数/(放置台数+駐輪場利用台数)】	成果指標	継続	都内駅周辺の放置自転車等の実態調査	7.0%	5.0%	3.0%	自転車利用を容易にする駐輪場など自転車利用環境整備の成果を示す指標のため

施策 6 - 4 - 1 災害に強い都市空間の形成



【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

○災害に強い都市の実現のため、延焼遮断帯の形成、特定緊急輸送道路の機能確保、木造住宅密集地域などにおける防災性の更なる向上により、安全で住み続けたいくなるまち。

【取組方針】

地域防災性の向上

区面積の約4割を占める木造住宅密集地域（木密地域）には、焼失や倒壊の恐れのある建物や狭あい道路が多く、公園等の空地が不足し、未接道地が散在するなど、大規模地震等による被害を拡大する危険性があります。

また、大地震発生時に避難路の沿道建築物が倒壊した場合、避難や救急活動等が困難になることが想定されます。

そのため、狭あい道路や防災生活道路等の拡幅や公園、広場の整備を進め、併せて老朽住宅等の建替促進などにより、木造住宅密集地域の改善を図るとともに特定緊急輸送道路の機能確保を推進します。また、区民や事業者の参画により、地域の特性を踏まえた防災まちづくりを推進します

[主な事業]

居住環境総合整備事業／不燃化特区推進事業／緊急輸送道路沿道建築物耐震化助成事業／狭あい道路拡幅整備事業
沿道まちづくりの推進

現在事業中である東京都施行による都市計画道路の用地取得が進み、居住環境に大きな変化が生じています。

そのため、市街地の不燃化・耐震化とともに、路線沿道や路線に近接する鉄道駅周辺地区において、街区再編や共同化などの手法を活用して、地域特性を踏まえたまちづくり事業を実施していきます。

あわせて、**地域協議会等**の場を通じて、防災まちづくりの機運を高めていきます。

[主な事業]

特定整備路線不燃化・沿道まちづくり推進事業／居住環境総合整備事業／不燃化特区推進事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2021年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
密集事業地区内の 不燃領域率【%】	64.4%	70%	—

活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
不燃化特区・都市防災不燃化 促進事業助成金件数【件】	177件	247件	—

6-4-1 施策内容チェックシート



1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	災害に強い都市空間の形成
[主な変更内容]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<p>●地域防災性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域の防災性の向上 ◇「不燃化特区制度」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域の防災性の向上 ◇「不燃化特区制度」の推進
<p>●沿道まちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇沿道まちづくりの推進 ◇建築物の耐震化の推進 ◇協働による震災復興まちづくり活動の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ◇沿道まちづくりの推進 ◇建築物の耐震化の推進 ◇協働による震災復興まちづくり活動の周知

3. SDGsを意識した点

◇「持続可能で住み続けられるまち」を意識した目標とした		
<p>意識したゴール</p>  	<p>意識したターゲット</p> <p>11.5 災害による死者、被災者の大幅な削減</p>	<p>意識したローカル指標</p> <p>災害等の自然外因による死亡者割合</p>

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

◇新型コロナの影響により、協議会等の開催を書面やオンライン開催をするなど状況に応じた方法に変更した。
--

5. 参画と協働を意識した点

◇行政のみならず協議会等の活動を通じて、災害に強いまちづくりに対する機運を高めていくことを明記した。
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-4-1	災害に強い都市空間の形成
部課名	地域まちづくり課・建築課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
災害に強い都市の実現のため、延焼遮断帯の形成、特定緊急輸送道路の機能確保、木造住宅密集地域などにおける防災性の更なる向上により、安全で住み続けられるまち。	①「建物の耐火・耐震化や、狭い道路の拡幅など、災害に強いまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	防災意識の向上	→ 地域防災性の向上	③不燃化特区・都市防災不燃化促進事業助成金件数【件】
同上	②密集事業地区内の不燃領域率【%】		→ 沿道まちづくりの推進	

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名	区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①「建物の耐火・耐震化や、狭い道路の拡幅など、災害に強いまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	継続	成果指標	20.1%	20.9%	22.1%	—	—	—	—	50%	不燃化特区は令和7年度終了予定				
② 密集事業地区内の不燃領域率【%】	継続	成果指標	62.3%	63.0%	64.2%	64.4% (暫定値)	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%					
③ 不燃化特区・都市防災不燃化促進事業助成金件数【件】	新規	活動指標	152件	191件	177件	223件	231件	247件	247件	247件					
④															

指標	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区民意識調査の⑨防災・治安の同質問に「どちらかというと思う」と回答した人の割合	災害に対する街の安心性を居住者の視点で示す指標であるため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	空地率+(1-空地率/100)×不燃化率(%) 空地率=100㎡以上の空地と幅員6m以上の道路の面積/地区面積 不燃化率=(耐火建築面積+準耐火建築面積×0.8)/すべての建築面積	建築物の不燃化や道路、公園などの空地の状況から算出した、市街地の「燃えにくさ」、つまり防災性が高まったことを示す指標であるため	所管課データ
指標③	過年度実績から見込み件数を算出	各種助成金の件数実績は建物の耐火・耐震化の進捗を示す活動指標であるため	所管課データ
指標④			

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
「建物の耐火・耐震化や、狭い路地の解消など、災害に強いまちづくりが進んでいる」について、肯定的な回答をする区民の割合	成果指標	継続	豊島区基本計画策定のための区民意識調査報告書	11.2%	35.0%	50.0%	災害に対する街の安心性を居住者の視点で示す指標であるため
不燃領域率	成果指標	継続	所管課データ	57.5%	70.0%	70.0%以上	建築物の不燃化や道路、公園などの空地の状況から算出した、市街地の「燃えにくさ」、つまり防災性が高まったことを示す指標であるため

施策 6 - 4 - 2 自助・共助の取組への支援



【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

○平時の防災意識が高く、災害時には地域住民や地域防災組織・企業が連携した救援活動などができる、「自助」「共助」による「地域防災力」の高いまち。

【取組方針】

感染症対策を踏まえた複合災害に対応した各種訓練の実施

災害時には個々の人の適切な行動と地域防災組織や事業者の組織的な対応が必要となります。そのためには平時から訓練を反復して行う必要があるため、多くの区民、事業者の参加を促していかなければなりません。

地震だけでなく風水害や感染症対策を踏まえた複合災害に対応した訓練内容へ充実させ、より多くの区民・事業者の参加を促すよう、参加・体験型の防災フェスの実施など地域防災力の裾野の拡大に努めます。併せて、救援センターの運営については、女性の視点を重視した運営が必要となることから、女性の防災リーダーの育成等に努めます。また、災害時要援護者への対応の万全なども含めた、誰一人取り残さない豊島区の実現を目指し、福祉救援センターの開設訓練や個別避難計画の策定に努めます。

[主な事業] 訓練等関係経費

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
「家庭、住民一人ひとりの防災意識や災害発生時の行動力が高まっている」と思う区民の割合【%】	12.8%	17.5%	25.0%

活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
合同防災訓練【回】	2	18	18

6-4-2 施策内容チェックシート

1. 施策名変更




	新	旧
施策名	同右	自助・共助の取組への支援
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<p>●感染症対策を踏まえた複合災害に対応した各種訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域防災訓練及び合同防災訓練の実施 ◇防災意識の啓発 ◇防災指導の充実 ◇地域防災組織の育成 ◇帰宅困難者対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域防災訓練及び合同防災訓練の実施 ◇防災意識の啓発 ◇防災指導の充実 ◇地域防災組織の育成 ◇帰宅困難者対策

3. SDGsを意識した点

- ◇目指すべきまちの姿として「気候変動に具体的な取り組みを」や「住み続けられるまち」など、SDGsの視点を盛り込んだ。
- ◇救援センターの運営に女性目線を取り入れることとした。

意識したゴール	意識したターゲット	意識したローカル指標
  	5.5 女性参画・平等なリーダーシップの確保 11.5 水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減 11.B 災害に対する強靭さを目指し、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。 13.1 気候関連災害や自然災害に対する強靭性及び適応力を強化する。	5.5.21 役員の女性の割合 5.6.2 女性活躍推進計画の策定有無 11.5.1 災害等の自然外因による死亡者割合 11.6.1 防災会議を設置している市区町村の割合

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

- ◇コロナ終息後も、各種感染症に対する対策には配慮を継続する必要がある。また、今回の「コロナ禍」で経験したように、予定した訓練等が計画どおり実施できない場合があることを想定し、合同防災訓練や地域における各種会合等において、「自助・共助能力」を高めるための広報啓発活動の強化や、ICT、DVD等を活用した視聴学習等効果的な訓練の実施など、「自助・共助能力」と「防災意識」の更なる向上に努める。

5. 参画と協働を意識した点

- ◇ 各自の「自助能力」と「防災意識」の向上と共に、災害時に地域防災組織や企業が連携した「共助」の意識を醸成させるためには、地域全体の連携が不可欠であることから、行政のみではなく地域住民、企業等と一緒に取組みながら「地域防災力」の向上に取り組むことを明記した。

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-4-2	自助・共助の取組への支援
部課名	総務部 防災危機管理課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
平時の防災意識が高く、災害時には地域住民や地域防災組織・企業が連携した救援活動などができる、「自助」「共助」による「地域防災力」の高いまち。	①「家庭、住民一人ひとりの防災意識や災害発生時の行動力が高まっている」と思う区民の割合【%】	発災時初期消火、応急救護などの防災活動を自発的に実施する地域住民の人数	感染症対策を踏まえた複合災害に対応した各種訓練の実施	②合同防災訓練【回】 ・救援センター実地訓練【回】 ③防災フェス【回】 ④池袋駅周辺混乱防止協議会開催、および池袋駅周辺帰宅困難者対策訓練【回】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名	区分	指標種別	2018年度～2030年度												
			2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
① 「家庭、住民一人ひとりの防災意識や災害発生時の行動力が高まっている」と思う区民の割合【%】	継続	成果指標	11.9	12.0	12.8	13.5	14.5	15.5	16.5	17.5	19.0	20.5	22.0	23.5	25.0
② 合同防災訓練【回】	新規	活動指標	11	11	2	12	18	18	18	18	18	18	18	18	18
③ 防災フェス【回】	新規	活動指標	-	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
④ 池袋駅周辺混乱防止協議会開催、および池袋駅周辺帰宅困難者対策訓練【回】	新規	活動指標	7	7	0	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

指標	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区民意識調査の⑨「防災・治安の同質間に「どちらかというと思う」と回答した人の割合	災害に対するまちの安心性を居住者の視点で示す指標であるため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	合同防災訓練を実際に開催した回数	区民に対する「防災意識」の普及啓発及び地域での災害への対応力の向上に資するための活動量の指標であるため	所管課データ
指標③	防災フェスを実際に開催した回数	区民に対する「防災意識」の普及啓発及び地域での災害への対応力の向上に資するための活動量の指標であるため	所管課データ
指標④	池袋駅周辺混乱防止協議会開催、および池袋駅周辺帰宅困難者対策訓練を実際に開催した回数	区民に対する「防災意識」の普及啓発及び地域での災害への対応力の向上に資するための活動量の指標であるため	所管課データ

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
「家庭、住民一人ひとりの防災意識や災害発生時の行動力が高まっている」について、肯定的な回答をする区民の割合	成果指標	継続	豊島区基本計画策定のための区民意識調査報告書	14.0%	20.0%	30.0%	区民の防災意識の向上や地域の防災力の向上を示す指標であるため

施策 6 - 4 - 3 被害軽減のための応急対応力向上



【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

○平時から常に区民を見守り、被災した区民の生活を早期に安定させるため、警察や消防、民間団体等と連携し、復旧・復興を迅速かつ着実に推進、誰もが安全・安心に住み続けられることができるまち。

【取組方針】

総合防災システム等の適切な運用

総合防災システム、被災者生活再建支援システム、伝達制御システムを駆使し、速やかな応急活動につなげる必要があります。

システムを適切に運用できる職員の育成を図るとともに、被災者への漏れのない支援を実現できる体制を整えていきます。また、同報系防災行政無線のデジタル化を進めます。

[主な事業] 総合防災システム関係事業／防災行政無線設備整備関係事業

防災協定の見直し・再締結

災害時協定団体（地方自治体や教育機関含む）97団体、帰宅困難者対策連携協定30団体と防災協定を締結していますが、地震、風水害及び感染症対策を踏まえた複合災害に対応していない協定も一部残っています。

協定締結団体と複合災害を想定した連携を図るとともに、**実効性のある協定となるよう内容の見直し**を行い、被災からの復旧・復興を迅速かつ着実に推進します。

[主な事業] ー

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	現状値 (2021年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
「震災時の避難、救援体制など、まち全体として災害への備えができています」と思う区民の割合【%】	13.2%	17.0%	24.5%	防災協定締結自治体・民間団体等との協定見直し件数【件】	5	10	10

6-4-3 施策内容チェックシート

1. 施策名変更




	新	旧
施策名	同右	被害軽減のための応急対応力向上
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<p>●総合防災システム等の適切な運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇防災関係システムの整備と運用 ◇防災行政無線のデジタル化 ◇被災者生活再建支援の庁内体制の確立 ◇救援センター等の備蓄物資の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◇防災関係システムの整備と運用 ◇防災行政無線のデジタル化 ◇被災者生活再建支援の庁内体制の確立 ◇救援センター等の備蓄物資の充実
<p>●防災協定の見直し・再締結</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇防災協定締結自治体等との連携強化と事前復興対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◇防災協定締結自治体等との連携強化と事前復興対策

3. SDGsを意識した点

◇目指すべきまちの姿として「気候変動に具体的な取り組みを」や「住み続けられるまち」など、SDGsの視点を盛り込んだ。

意識したゴール	意識したターゲット	意識したローカル指標
  	<p>5.5 女性参画・平等なリーダーシップの機会の確保</p> <p>11.5 水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減</p> <p>11.B 災害に対する強靭さを目指し、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。</p> <p>13.1 気候関連災害や自然災害に対する強靭性及び適応力を強化する。</p>	<p>5.5.21 役員の女性の割合</p> <p>5.6.2 女性活躍推進計画の策定有無</p> <p>11.5.1 災害等の自然外因による死亡者割合</p> <p>11.6.1 防災会議を設置している市区町村の割合</p>

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

- ◇ コロナ終息後も、各種感染症対策には配意を継続する必要がある、仮に予定していた訓練等が計画どおり実施できない状況があったとしても、訓練等実施者等の選定（範囲、人数、時期・時間等）や、ICT、DVD等の活用した効果的な訓練を継続することで、職員の「防災対応能力」の、維持向上に努めます。

5. 参画と協働を意識した点

- ◇ 被災した区民の生活を早期に安定させ、復旧・復興を迅速かつ着実に推進するためには、他自治体をはじめ民間団体や企業との協力が不可欠であることから「民間団体や企業との連携」を明記した。

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-4-3	被害軽減のための応急対応力向上
部課名	総務部 防災危機管理課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
平時から常に区民を見守り、被災した区民の生活を早期に安定させるため、警察や消防、民間団体等と連携し、復旧・復興を迅速かつ着実に推進、誰もが安全・安心に住み続けられることができるまち。	①「震災時の避難、救援体制など、まち全体として災害への備えができています」と思う区民の割合【%】	平時も含めいつでも安全・安心に住み続けられていると感じる区民の意識	→ 総合防災システム等の適切な運用	②総合防災システムを用いた訓練【回】 ③デジタル化された同報系防災行政無線【箇所】
		実際に被災した場合の震災発生時から復興までの日数	→ 防災協定の見直し・再締結	④防災協定締結自治体・民間団体等との協定見直し件数【件】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	「震災時の避難、救援体制など、まち全体として災害への備えができています」という、肯定的な回答をする区民の割合【%】	継続	成果指標	12.6	11.6	13.2	13.5	14.0	15.0	16.0	17.0	18.5	20.0	21.5	23.0	24.5
②	総合防災システムを用いた訓練【回】	新規	活動指標	3	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
③	デジタル化された同報系防災行政無線【箇所】	新規	活動指標	18.0	37.0	58.0	75.0	77.0	—	—	—	—	—	—	—	—
④	防災協定締結自治体・民間団体等との協定見直し件数【件】	新規	活動指標	-	-	-	5	10	10	10	10	10	10	10	10	10

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区民意識調査の⑨「防災・治安の同質間に「どちらかというと思う」と回答した人の割合	被害軽減のための取り組みの成果について、まち全体として災害への備えができていますか、また、備えができる環境が整っているかどうかを区民目線から示す指標であるため	協働のまちづくりに関する区民意識調査
指標②	総合防災システムを用いた実際の訓練回数	区職員に対する「防災意識」の普及啓発及び災害への対応力の向上に資するための活動量の指標であるため	所管課データ
指標③	デジタル化された同報系防災行政無線の箇所数	災害への対応力の向上に資するための活動量の指標であるため	所管課データ
指標④	防災協定締結自治体・民間団体等との協定見直し件数	協定の見直しの成果を示す指標であるため	所管課データ

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
「震災時の避難、救援体制など、街全体として災害への備えができています」という、肯定的な回答をする区民の割合	成果指標	継続	豊島区基本計画策定のための区民意識調査報告書	40.0%	50.0%	60.0%	被害軽減のための取組の成果について、街全体として災害への備えができていますか、また、備えができる環境が整っているかどうかを区民目線から示す指標であるため

施策 6 - 4 - 4 無電柱化の推進

【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿



○電柱・電線がなくなることで、災害に強く快適な歩行空間を確保し、良好な都市景観が形成されるまち。

【取組方針】

既存道路におけるモデル路線の整備推進

モデル路線である「学習院橋の坂」では、無電柱化を整備しましたが、既存道路は新設道路と違い、無電柱化の施設を設置できる場所が限られるため、事業が進まない傾向があります。

「学習院橋の坂」の整備で得られた技術や知識を、事業中のモデル路線である「巣鴨地蔵通り」「立教通り」に活用し、課題解決方法を確立した上で無電柱化を推進します。

【主な事業】 豊島区無電柱化事業

優先路線の整備推進

電柱・電線は、災害時の活動や避難を妨げるだけでなく、都市景観も阻害しています。

「防災」「安全」「景観」を基本方針とした豊島区無電柱化推進計画に基づき、整備路線を定め、計画的に無電柱化を推進します。

【主な事業】 豊島区無電柱化事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
区道における無電柱化率【%】	7.6	8.1	8.4

活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
事業化率【%】	50	調整中	調整中

6-4-4 施策内容チェックシート


1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	無電柱化の推進
[主な変更内容]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<ul style="list-style-type: none"> ● 既存道路におけるモデル路線の整備推進 ◇ 既存道路におけるモデル路線の整備推進 	◇ モデル路線の整備の推進
<ul style="list-style-type: none"> ● 優先路線の整備推進 ◇ 優先路線の整備推進 	◇ 優先路線の整備の推進

3. SDGsを意識した点

<ul style="list-style-type: none"> ◇ 安全・安心な道路空間の整備とともに、地域性を考慮した都市景観を創出し、「発展し続けるまち」を意識した。 ◇ 台風や地震などの激甚化する自然災害に対する強靱性および適応性を有した「住み続けられるまち」を意識した。 		
意識したゴール 	意識したターゲット 11.2 公共交通機関の拡大による交通の安全性の改善と、安全かつ安価で利用しやすい持続可能な輸送システムの提供 13.1 自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の強化 17.17 公民、市民のパートナーシップ推進	意識したローカル指標

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

◇ 感染症の影響を軽減化するため、事業が滞らないようメール等を活用した非接触型での調整を増やし、協議会なども書面開催や意見照会文書を実施する。このような取り組みにより、対応力および持続力の高い事業推進を図る。
--

5. 参画と協働を意識した点

◇ 無電柱化は、地元や警察、占用企業者などとの連携が不可欠であり、行政のみではなく関係機関と一緒に取り組む。
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-4-4	無電柱化の推進
部課名	都市整備部道路整備課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
電柱・電線がなくなることで、災害に強く快適な歩行空間を確保し、良好な都市景観が形成されるまち。	①区道における無電柱化率【%】		→ 既存道路におけるモデル路線の整備推進	②設計数【件】
			→ 優先路線の整備推進	③事業化率【%】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	区道における無電柱化率【%】	継続	成果指標	7.5	7.6	7.6	7.7	7.7	7.7	7.8	8.1	8.1	8.1	8.2	8.3	8.4
②	設計数【件】	新規	活動指標	5	4	4	5	4	4	7	7	3	2	7	3	1
③	事業化率【%】	新規	活動指標	50%	50%	50%	50%	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中
④																

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	無電柱化整備延長 ÷ 区道総延長	災害に強く、美しいまちが形成されていることを示す指標のため	所管課データ
指標②	無電柱化を整備した区道延長の合計	無電柱化を達成した数値であるため	所管課データ
指標③	事業化路線 ÷ (事業路線 + 優先路線)	事業化を達成した数値であるため	所管課データ
指標④			

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
区道の無電柱化整備率	成果指標	継続	所管課データ	6.2%	7.0%	7.6%	無電柱化整備率は、災害に強く、美しい街が形成されていることを示す指標のため

施策 6 - 4 - 5 総合治水対策の推進

【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿



○大雨や台風などによる水害から区民の生命・財産の安全が確保され、安心して住めるまち。

【取組方針】

神田川水位警報装置及び冠水対策施設の維持管理

台風だけでなく、地球温暖化やヒートアイランド現象などの影響から、時間 50 mm以上の豪雨が増加し、短時間で河川に流入するため、河川氾濫や下水道管からの吹き出しなど都市型水害が発生しています。

神田川水位警報装置については、災害に対する適切な水防対応や災害対策本部の立ち上げの判断に重要な施設であり、継続した維持管理を実施します。

【主な事業】 水害対策維持管理事業

雨水流出抑制の推進

近年の都市型水害の発生により、これまで浸水、冠水がなかった箇所での被害がみられることから、雨水流出抑制対策には、公共施設の整備だけでは目標達成が困難となっています。

雨水流出抑制対策として、下水道施設の負担を軽減するため、透水性舗装の施工検討・整備を行い、既存の雨水樹等の適切な配置・管理に併せて、公民連携した「貯留施設」の整備を積極的に行っていきます。

【主な事業】 水害対策維持管理事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
雨水流出抑制対策量【万㎡】	5.0	9.0	13.8	雨水樹清掃件数【箇所】	8,808	8,000	8,000

6-4-5 施策内容チェックシート



1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	総合治水対策の推進
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
● 神田川水位警報装置及び冠水対策施設の維持管理 ◇神田川水位警報装置の維持管理 ◇降雨データおよび地下道冠水対策の充実	◇神田川水位警報装置維持管理の充実 ◇降雨データおよび地下道冠水対策の充実
● 雨水流出抑制の推進 ◇ビックリガード冠水対策用の排水施設の 維持管理 ◇雨水 流出抑制対策の強化	◇ビックリガード冠水対策用の排水施設の管理運営 ◇雨水浸透柵等の設置

3. SDGsを意識した点

◇「住み続けられるまちづくりを」の視点を盛り込んだ。 ◇各取り組みの実施には、警察・消防・町会などの関係団体と連携して取り組む。		
意識したゴール  	意識したターゲット 水関連災害などの死者・被災者数の大幅な削減と経済損失の軽減 自然災害に対する強靱性及び適応の強化	意識したローカル指標 災害等の自然が委員による死亡者割合

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

◇ホームページでの浸水実績の公表や神田川の水位情報の公表 ◇民間施設や公共施設への貯留施設の整備

5. 参画と協働を意識した点

◇水防対応は、警察・消防・町会などの関係団体と連携して取り組む。 ◇雨水流出抑制対策には、公共整備のみで目標値の達成は難しいため、民間事業者にも、機会あるごとに協力を求めていく。
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-4-5	総合治水対策の推進
部課名	都市整備部道路整備課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
大雨や台風などによる水害から区民の生命・財産の安全が確保され、安心して住めるまち	①雨水流出抑制対策量【万㎡】		→ 神田川水位警報装置及び冠水対策施設の維持管理	②雨水樹清掃件数【箇所】
			→ 雨水流出抑制の推進	③雨水浸透柵等の設置【箇所】

【施策の進捗状況を測る参考指標】 * 今年度実績値が判明後に設定

指標名		区分	指標種別	2018 実績値	2019 実績値	2020 実績値	2021 目標/実績値	2022 目標値	2023 目標値	2024 目標値	2025 目標値	2026 目標値	2027 目標値	2028 目標値	2029 目標値	2030 目標値	
①	雨水流出抑制対策量【万㎡】	継続	成果指標	5.0	5.0	5.0	5.6	6.1	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	13.8	
②	雨水樹清掃件数【箇所】	新規	活動指標	8,971	8,862	8,808	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
③	雨水浸透柵等の設置【箇所】	新規	活動指標	—	—	調査中	調査中	*	*	*	現状値を踏まえ設定	*	*	*	*	現状値を踏まえ設定	
④																	

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	区有施設及び民間施設で整備した累計数量	神田川及び石神井川流域に位置する関係区市において、時間75mm対応にするための雨水流出抑制対策量	所管課データ
指標②	通常及び台風前等時の点検数の年間処理件数	ゲリラ豪雨等の対応には、日頃からの点検・清掃が必要であり、既存施設の機能を最大限とするため、雨水樹の清掃件数	所管課データ
指標③	区有施設及び民間施設で整備した累計数量	雨水流失抑制を目的とする、雨水浸透柵や透水性舗装等の箇所数	所管課データ
指標④			

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014 実績値	2020 目標値	2025 目標値	設定理由
雨水流出抑制対策量(万㎡)	成果指標	継続	所管課データ	4.9	10.4	13.8	神田川及び石神井川流域に位置する関係区市において、時間75mm降雨に対処すべき雨水流出抑制対策量が東京都総合治水対策協議会により定められているため

施策 6 – 5 – 1 治安対策の推進



【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

○犯罪のない、誰もが安全・安心に暮らせるまち。

【取組方針】

地域防犯力の向上

青色防犯灯付パトロール車（青パト）の運行や、官民一体となった、街頭防犯カメラの設置促進、環境浄化パトロールなどにより、刑法犯の認知件数は年々減少しています。一方で、特殊詐欺の発生や、繁華街における客引きなど、体感治安の不安は払拭されていません。

青パトの24時間365日運行、路上喫煙対策・違法看板対策などによる地域美化活動を含む環境浄化・防犯パトロールを実施するとともに、街頭防犯カメラの設置及びランニングコストの補助促進など、地域の主体的な取組による防犯環境整備を促進し、より一層の防犯活動強化を図ります。

【主な事業】 地域における見守り活動支援事業／青色パトロール車の運用等

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
区内の刑法犯認知件数【件】	3,193件	2,600件	2,100件

活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
環境浄化パトロール実施回数【回】	15回	120回	120回

6-5-1 施策内容チェックシート



1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	治安対策の推進
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
<p>●地域防犯力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域における見守り活動支援事業 ◇青色防犯灯付パトロール車の運行 ◇地域防犯力向上設備の助成 ◇繁華街の環境浄化対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域安全対策 ◇青色防犯灯付パトロール車の運行 ◇地域防犯力向上設備の助成 ◇繁華街の環境浄化対策の推進

3. SDGsを意識した点

◇「住み続けられるまちづくりを」や「平和と公正を全てを人に」につき、生活の基礎となる安全安心なまちづくりに取り組んでいく。		
<p>意識したゴール</p>  	<p>意識したターゲット</p> <p>11.7 安全で使いやすい緑地や公共スペースを、すべての人が利用できるようにする</p> <p>16.1 暴力及び暴力に関連する死亡率の減少</p>	<p>意識したローカル指標</p> <p>11.7 人口当たりの性犯罪者認知件数</p> <p>16.1 人口当たりの刑法犯認知件数</p>

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

<ul style="list-style-type: none"> ◇ 青パトや繁華街警備員による各種街頭犯罪の防止活動を実施。 ◇ 環境浄化パトロールによる安全安心なまちづくりの機運醸成。
--

5. 参画と協働を意識した点

◇ 環境浄化パトロールなど、区民の活動に行政が加わり、また、街頭防犯カメラの設置助成など、区民と行政が一体となって治安向上に取り組んで行く必要があることから、官民一体となって各種犯罪の防止と体感治安の向上を目指すことを明記した。
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-5-1	治安対策の推進
部課名	総務部防災危機管理課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点		取組方針(見出し)	活動指標
犯罪のない、誰もが安全・安心に暮らせるまち。	①刑法犯認知件数	地域住民の体感治安	→	地域防犯力の向上	②環境浄化パトロール実施回数
			→		

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	区内の刑法犯認知件数	継続	成果指標	4,477	4,087	3,193	3,000	2,900	2,800	2,700	2,600	2,500	2,400	2,300	2,200	2,100
②	環境浄化パトロール実施回数	新規	活動指標	123	126	15	20	120	120	120	120	120	120	120	120	120
③																
④																

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	警視庁の統計データ分析による。	治安対策の取組結果を示すとともに、安全安心なまちづくりが進められていることを示す指標であるため。	警視庁データ
指標②	環境浄化パトロール実施回数による。	区民と行政の活動状況を示す指標であるため。	所管課データ
指標③			
指標④			

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
区内の刑法犯認知件数	成果指標	継続	警視庁データ	6,107件	5,400件	4,900件	区民の体感治安の向上を図り、区民が安全で安心に暮らせるまちを実現するため治安対策の取り組み結果を示すとともに、防犯意識や地域の防犯力の向上、安全な環境整備が進められていることを示す指標であるため

施策 6-5-2 交通安全対策の推進



【目指すべきまちの姿】 SDGs を踏まえた2030年に実現するまちの姿

○地域の交通安全意識の高揚と、交通安全施設整備の推進により、すべての人が安全に移動できる、人優先の交通事故のないまち。

【取組方針】

交通安全啓発と交通安全施設整備の推進

交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、依然として区内の交通事故による死者は毎年発生しており、交通安全意識の高揚を図るための啓発活動と交通安全施設の整備が必要です。

警察や学校、地域団体等と協力して、広く普及啓発活動を実施するとともに、**新しい生活様式に対応したオンラインによる普及啓発等を展開します**。また、ガードレール、道路反射鏡等の交通安全施設整備を推進します。

【主な事業】 交通安全対策事業／交通安全施設整備事業

自転車安全利用の推進

新しい生活様式により自転車利用の多様化が進んでいることから、自転車乗用中の被害事故、加害事故共に防止し、事故時の被害を軽減するための取組が求められています。

自転車乗用中のルール遵守・マナー向上や**自転車損害保険等の加入を促進するとともに、幼児や児童、高齢者を対象とした自転車用ヘルメット購入補助制度や親子自転車安全利用教室等により安全利用を推進します**。

【主な事業】 自転車ヘルメット普及啓発事業

【施策の進捗状況を測る参考指標】

成果を測る参考指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	活動指標	現状値 (2020年)	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)
区内の自転車乗用中の交通事故発生件数【件/年】	246	221	196	幼児・児童及び高齢者用自転車ヘルメット補助個数【個/年】	602	625	650

6-5-2 施策内容チェックシート



1. 施策名変更

	新	旧
施策名	同右	交通安全対策の推進
[変更理由]		

2. 主な取組内容

新見出し	旧見出し
●交通安全啓発と交通安全施設整備の推進 ◇交通安全啓発の推進 ◇交通安全施設整備の推進	◇交通安全施設整備の推進 ◇交通安全啓発の推進
●自転車安全利用の推進 ◇自転車安全利用の推進	

3. SDGsを意識した点

◇「交通事故による死傷者の半減」「交通の安全性の改善」の視点を意識した。 ◇「すべての人に」という点に着目し、自転車用ヘルメットの普及啓発の対象に、高齢者を対象に加えた。		
意識したゴール  	意識したターゲット 3.6 交通事故による死傷者の半減 11.2 子供、高齢者等のニーズに配慮した交通の安全性改善	意識したローカル指標 3.6 区内の交通事故発生件数 区内の自転車乗用中の交通事故発生件数 11.2 高齢者・子育て世代交通安全研修会の参加人数 幼児・児童、高齢者へのヘルメット購入補助個数

4. サステナブル・リカバリーを意識した点 (after/withコロナに向けた取組、DX (ICT活用) を意識した点)

◇新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、自転車配送業の一般化など自転車利用形態が変化している。来街者や外国籍の自転車利用者への啓発活動を推進していく。また、非接触型の啓発活動を検討していく。
--

5. 参画と協働を意識した点

◇警察や学校、地域団体等と協力し、広く交通安全啓発活動を行う。 ◇自転車用ヘルメットの普及啓発にあたっては、区内自転車商組合と連携し、その販路を活用する。
--

指標設定に向けたチェックシート

施策名	6-5-2	交通安全対策の推進
部課名	都市整備部土木管理課	

【目指すべきまちの姿、取組方針と指標の対応関係】

目指すべきまちの姿	成果を測る参考指標	数値目標では捉えられない／現状数値化できない評価の視点	取組方針(見出し)	活動指標
地域の交通安全意識の高揚と、交通安全施設整備の推進により、すべての人が安全に移動できる、人優先の交通事故のないまち。	①区内の交通事故発生件数【件/年】	ガードレール、道路反射鏡等の交通安全施設の整備状況	→ 交通安全啓発と交通安全施設整備の推進	②高齢者・子育て世代交通安全研修会の参加人数【人/年度】
同上	③区内で自転車乗用中の交通事故発生件数【件/年】		→ 自転車安全利用の推進	④幼児・児童及び高齢者用自転車ヘルメット補助個数【個/年】

【施策の進捗状況を測る参考指標】

指標名		区分	指標種別	2018実績値	2019実績値	2020実績値	2021目標/実績値	2022目標値	2023目標値	2024目標値	2025目標値	2026目標値	2027目標値	2028目標値	2029目標値	2030目標値
①	区内の交通事故発生件数【件/年】	継続	成果指標	650	549	475	469	463	457	451	445	439	433	427	421	415
②	高齢者・子育て世代交通安全研修会の参加人数【人/年度】	新規	活動指標	1,301	1,246	923	950	1,000	1,100	1,250	1,350	1,400	1,450	1,500	1,550	1,600
③	区内の自転車乗用中の交通事故発生件数【件/年】	新規	成果指標	290	240	246	241	236	231	226	221	216	211	206	201	196
④	幼児・児童及び高齢者用自転車ヘルメット補助個数【個/年】	新規	活動指標	457	480	602	605	610	615	620	625	630	635	640	645	650

	指標の算出方法	指標の設定理由(施策目標との関係)	出典
指標①	警視庁より毎年1月に提供される、前年1月から12月までの交通事故統計の累月報における年間の合計値	交通安全対策の取組結果を示すとともに、交通安全の意識の高まりや安全な環境整備が進められていることを示す指標であるため	警視庁データ
指標②	区民ひろばにて警察と協働で実施する高齢者及び子育て世代を対象とした交通安全教室の年度間の参加人数の合計値	地域の交通安全意識の高揚のため、区が行う普及啓発事業の取組状況を示す指標であるため	所管課データ
指標③	警視庁より毎年1月に提供される、前年1月から12月までの交通事故統計の累月報における年間の合計値	交通安全対策の取組結果を示すとともに、交通安全の意識の高まりや安全な環境整備が進められていることを示す指標であるため	警視庁データ
指標④	自転車商組合から提出される、ヘルメット販売実績報告書における補助個数の年度間の合計値	自転車乗用中にヘルメット着用することで、交通事故時の死亡リスクを避けることができ、その普及状況を示す指標であるため	所管課データ

【参考】現基本計画の「施策の達成度をはかる指標」

指標名	指標種別	区分	出典	2014実績値	2020目標値	2025目標値	設定理由
区内での交通事故発生件数	成果指標	継続	警視庁データ	606件	540件	500件	交通安全対策の取り組み結果を示すとともに、交通安全の意識の高まりや安全な環境整備が進められていることを示す指標であるため